

振興会ニュース

第 5 号

1996年 9 月

日本バスケットボール振興会

内容

- 振興会役員会の開催
— 会員増・助成事業等が決まりました —
- 振興会の役員・会員一覧表
- JBL加藤会長ご就任に際して
- 全国ママさん大会の報告
- 日本バスケットボール振興会規約

JBL加藤会長のご就任に際して

富士 秀雄（振興会理事長）

当振興会特別顧問の加藤祥行氏が、去る7月、JBL(バスケットボール日本リーグ機構)の初代会長に就任された。JBLは、昨年10月に発足し、会長・副会長等の役職を欠いたまま、関係者の努力により運営されてきたが、長期的に考えた場合、役員の編成と組織の強化は、JBLの発展にとって不可欠であり、大いに期待されることである。

特に、加藤氏は実業界での秀れた経営実績と日本バスケットボール協会副会長の経験をもっておられるとともに、冒頭に触れたように当振興会とご縁のある方であり、また、JBLの関係者の多くが当振興会の役員を兼ねていただいているので、今後当振興会としてできるかぎりの協力を惜しまないものである。

申すまでもないが、オリンピックがアマの殿堂からプロ化、商業化することにより、スポーツ界は大きく変らざるをえなくなっている。バスケットボールもその例外ではない。

先般のアトランタオリンピックで、女子チームは一応の成果をあげたが、日本のバスケットボールが、特に男子バスケットボールがオリンピックを目指して実力の飛躍的な向上を図るためには、そしてまた、他のスポーツ種目に劣らない人気の高揚を図るためには、今までの日本リーグから脱皮し、プロ化・興業化・テレビ報道の拡大等が前向きに進められることが必要である。アメリカのNBAとはいわないまでも、日本版NBAの実現はバスケットボールファンがJBLに託す大きな夢であろう。加藤会長のリーダーシップのもとで、幾多の課題が解決され、夢が実現されることを強く願うものである。

ここで、さらに言及したいことは、JBLが組織・運営面で自主性・独自性をもつことは大へん望ましいことであるが、何といてもJBLは日本の選手強化の大きな部分を占めるものであり、又試合数からいっても全国の関係者の協力が必要である。

さらにまた、日本リーグチームは実業団チームであるということである。将来のことはともかく、現状においては、資金面でもチーム面でも日本リーグを支えているのは実業団である。チームの有為転変に対応し日本リーグの水準を維持し、また向上を図るためには、実連との連携を緊密にすることが大切であり、又同様に優秀プレイヤーの供給源は大学であるから学連との連帯についても配慮する必要がある。

さいわいに、加藤会長は実業界出身であり、JBLと実業団との協力関係の促進に遺漏ないものと期待している。

今後共当振興会として、何が協力できるか、どのように協力するか検討の上、具体化したいと思っている。

全国ママさん大会の報告

吉田 ミツ子 (振興会理事)

第15回全国ママさんバスケットボール交歓大会は、帯広地区音更町で7月26日から28日まで開催され、日本バスケットボール協会普及部ママさん委員の一員として参加してまいりました。

開会式には、日本バスケットボール協会山田副会長もご出席下さり、ママさんの試合もご覧いただき感謝しております。今年は15回記念大会とし、例年より一般・シ



ニア(40歳以上)共八チームずつ増やし、計80チームが10ブロックに分れて試合を行い、それぞれのブロックごとの優勝を競う試合方式で行われました。今回記念大会のイベントとして、子供づれの入場行進があり、また日本バスケットボール協会横山普及部長の試球式の後、各チーム代表選手によってフリースロー・スリーポイント大会も行われ、最後に盆踊りも企画して下さい、なごやかな雰囲気が体育館に広がりました。既婚の家庭婦人であることが条件ですが、年1回の全国大会を楽しみにしているママさんも多いようです。年々技術・パワー共に上達しママさんとも思えない華麗なそして豪快なプレーも見られ、現役復帰も可能ではと思える選手もいました。ママと離れて泣き出す子や、父子で応援したり、ハーフタイムには大きなボールで遊んでいる子供等、ママさん大会ならではの微笑しい光景も見られます。毎年のことですが、開催地の協会はじめ多くの地元関係者の方々、そして中・高生のバスケット愛好者のご協力があって大会運営が行われており、心から感謝申し上げます。

開催地は、立候補制で決まるわけですが、北から南まで全国でお願いしております。東京でも一度開催出来たらと思うのですが、丁度全国ママさんバレー大会と開催期間が重なるので大変難しいところですが検討しなくてはならないと思っております。

現在、活動チーム数は300弱で約4,000人ほどのママさんが楽しんでおられます。全国大会出場県は39県止りなので、1年でも早く47都道府県が出場していただけるようお願い、努力したいと思います。今回、幸いにも朝日新聞社で全国ママさんバスケットボール交歓大会の特集を組んで全国版で大々的に報道して下さい、全国的にも関心が

高まってきております。そこで普及部ママさん委員会としては、この盛り上りの機会に全国家庭婦人バスケットボール連盟（仮称）を是非設立したいために、設立準備委員会を発足して現在検討を進めております。ママさんあつてのミニから中学・高校の普及発展と思っております。日本のバスケットが世界に羽ばたける選手を育てる為にもママさんの組織づくりにご理解とご協力をお願い申し上げます。

今回の第15回記念大会には、日本バスケットボール振興会からご援助を賜りましたことを関係者として心からお礼申し上げ、大会に参加した感想と、ママさん委員会の近況報告とさせていただきます。

